

町独自の農地集約促進

条例の制定を



西高 悟 議員

食糧供給基地のあり方を実感した

町長

高原野菜団地であり、大崎町と比べ地域差と天候の違いはあるものの、食糧供給基地としてのあり方は若干は理解できた。

遊休地対策と農地集約化の方策は

西高議員

将来の地域型農業生産法人の設立を、目指す志しはないか。そのステップとして大型畑作農家育成をはかり、集落のこれからの高齢化による離農に対し、遊休地の増加を

防ぐための検討をはかるプロジェクトの設置はできないか。

農業委員会との一層の連携を

強める

町長

農業委員会との連携を一層強め、認定農業者及び担い手農家へ農地の面的集積を促進する。地域のリーダーが地域のために何とかしようという意識を持ってもらうために、行政として何かできないか勉強させてもらう。

リーダーの育成は

西高議員

リーダーの育成をはか

るために、先進地への研修や勉強会を行うべきではないか。段階的に進めていくことが、プロジェクトにつながるのではないか。

人材育成基金の

活用をはかる

町長

担い手農家への農地流動化をはかるためにも、集落に遊休地問題を投げかけることも大事であり、人材育成基金の活用をはかり、研修を行うこともできるので、取り組んでいく。プロジェクトは、農業委員会やJA・各種関係機関をもって対応したい。

町独自の農地集約促進条例の制定を

西高議員

大崎町の畜産飼料畑・施設野菜・お茶・たばこ・

普通作畑などの団地化による経費節減や収益率を上げるために、この条例の制定をすべきと思う。儲かる農業が、後継者を作り活気のある町づくりへと、つながって行くのではないか。



妻恋村のキャベツ畑

条例制定はいつか

西高議員

検討していくとの答弁であるが、今、団地化をはかることが大事であり、畑かんに対しても、耕地課で団地化推進に取り組んでいる。この条例の制定が急務と考えるが、いつできるのか。

検討の結果により
予算化を

町長

食糧供給基地としての観点から考えると作物の団地化をはかりたいと思う。助成の内容などについては、農業委員会とも協議し、年末までに結論を出し、予算化をできるように前向きに検討する。

農業委員会と共に
検討

町長

広大な農地があり、高齢化・担い手不足で将来に不安がある。農地集約